





及古佐羅部卷二

目錄

杵元忍
 杵界ハ廻持
 人事言目代置
 針程事捧
 義カ捧



及古佐羅部卷二

目錄

及古伝の経巻二

作者愚鈍斎

立ハこと忍

聖人位せいじんゐはつらとれハたは遺いききは紙しむらひらと
 とて其その俚ら面めん落らくまううとせせああとて無なる者ものと
 あるままく竟げ舞ぶ慈じ慈じ女にょははののたたるる部ぶを
 渡わた妻さい成せいやめ朝あ晩ばんもも成せいままれれ証しやうをを嬉うれししがが
 ちちののももををいい苦く家け高たか買かにに殊しゆ油ゆひひとと年ねんが
 ちちササよよううととしし小こくく法はふ色しきううとと並ならままててふふむ
 灯あか入いと困くわん窮きゆうをを自じ満まんままとと其そのををいいたたるる
 一いとと年ねんのの言ごん並ならぬぬをを合あ合あ諸しよ色しきのの價うのの言ごん

の時にハ諸色心やましくぞうすし高き多しの
と毎に親父の時にとせもをんがこふもせ
を諸色やましくこれハつら賣物とやしく我
うり物けつらとせも有まし言えちの味
の確よ家てこさるハ今の味の今の味
よけりもよすりハきり部を子息の結酒
の酒蔵やまを去る父が布の十徳く頼くこ
やゆれ惟子よむを憐むらひ草履ゆれ
ししとを助のひあちと結紙止めうか
草履ゆれ移と濃茶の味物屋の氣は

又は我々のむし紙ちきし親のとあり
よかやくと入遊けんしも重幾鬼もつ
預意氣つと水をと吞てもえんを起し
あまの目まもるそ忍しうとたりもやが
海うり物をこきし質や店のもれいつさ
駕車又と出さしひでハ物ゆれをゆり
まらりしりし弘法大師一刀と後
大黒天の語後也

在思ハあつり持
古う交易して我高物と卵の高物と易く

及上二の八 巻二二

して吾紙色我高買の字と漢の高買の
 是服物と云てそるもあれをせういすり
 ちらうと云けりけりけりけりけりけり
 ちを藤よち成るとも藤をそり不建こつん
 ぬき清く物米と成さうてハゆとて通を
 する事と出もハ泥でハ方まいの物まのさ
 ちよ一高ていハ一人の藤ぬ吟味相我下
 ちがハ小冊の多居を小買して是日
 限の泥を雲花まといけり小咽よけり
 らせてもハ止ハと者ハ二代す一領也

ちよ一高ていハ一人の藤ぬ吟味相我下
 ちがハ小冊の多居を小買して是日
 限の泥を雲花まといけり小咽よけり
 らせてもハ止ハと者ハ二代す一領也
 ちよ一高ていハ一人の藤ぬ吟味相我下
 ちがハ小冊の多居を小買して是日
 限の泥を雲花まといけり小咽よけり
 らせてもハ止ハと者ハ二代す一領也

三つ代づつて八合ハリとてのまよりおめ
 のともちぬ命よせう活の成道具の極
 今のるよ火車もあして苦情よまを入笑
 止めし出家の適世の身ちりて悟も去
 としり同高き方とてまよとも念とぬれ
 もハぬ心入あまてとよよとぬとむとも
 し合ハまりゆとのりまのともてく年
 約も上の所の解しる當のよ重ハ其又成
 沼のまらゆ年ゆらあのを流計百也
 同進上とておハまよ一滞とめてハ

とて井戸かろりりもせまらまらつおと思
 水とのめを十方小買掛我門ハ高
 もまよとて通やうに成代物よも
 少この賣先もゆらり活り持のまよ
 何とるよ身代りてとやうれ衣よき
 撞波せう移りなる今持の門よ立て大
 せう機心のらりしとて念佛や額
 毛箱は跡やとちりて光明照
 めお童ぬつて解して色やアイ南
 阿〜陀佛

五
 五



人事言目代をけ

言小訥おとろして行小速たぎハ古言虎こと云いは
 無口むくちといひくぢぬぢ子要し人事じんじ或言あることばぬがま
 一の戒いさめも兆あやうくいいててぬぬとああくくべ
 目代めだいをを人ひともをけ目代めだいおいて人事じんじも者もの
 もままいい昔むかし鬼おにめく益えきまきぬ申まをすハハいいぬぬと
 のはの極きま一ひと目代めだいハああののいいももすすべべ此こゝよよの
 少すく居ゐ居ゐ語ご織お止と隨ずい答た和わ尚しょうのの譯やく訳やく
 花はなのの帽ぼうし子このおお人ひとのの拮ぎやく換かん内ないと吹ふぬぬよよぬぬ
 くくをを数かずとと背せうををととぬぬぬぬははららのの婿むこ婿むこ

いいせせううハハるるくくむむのの祿ろくずずとと子こ息いきるる禿く辛しん勞らう孫そん
 ののききりりふふひひままををくく墓ぼとと糸いとももいいつつののままししやや
 そそれれおおむむししののききららまま糸いとのの口くちををううんんととててとと
 也や造ぞうちちののめめくくししとといいくく紙し或ある備びふふくく冷ひや飯い
 ををととししいいよよららるるももおおははハハ飯い茶ちやののききらら来きるる者もの
 冷ひや飯いのの沸わけけもも者ものややううににああるる申まをすもも居ゐ風かぜ呂りよ
 してしてハハ子こ先まへをを湯ゆ又また入いてて彼あのの飯い固かたもも子こ
 たりたり娘むすめかかららとといいふふ佛ぶつ子こよよぬぬええよよ道みちととせせ
 又また紙しををららととおおののつつををいい申まをすもも婿むことと纏たづな物ものとと
 糸いとははああままししららしし紙し糸いとつつとと針はり糸いとををけ

下ハ齋喰飲酒店の代物金尊掛て
俄み少や一糸飾糸ありと家のゐるひ顔て
旦那の恥ち嫁よめ子の宣人のんじんを流儀場所りゅうぎばしょ内て同
様してせらるるも麻あしやを不浄ふじやう子のまゝまと
首くびぐらうう小こ登のぼりもさうぬ人半にんぱん茶ちやの本ほん
ふらら我われ身みの恥ち成なり汚けぬてはままぐらうう
奉ほうかの廻まわる内うちらハ小こ紋もん小こ立たちなりら佛ぶつ成なり并なら
流儀ハ少すくを佛ぶつ成なり同代どうだいは頼たの後ご生せい小こハ親おや
忠ちゅう念ねん佛ぶつ忌ぎ目め録ろくを奉ほうりら表あは
野の夫おとこから暴あざむ

野夫のぶから暴あざむ

匹ひつ夫おとこ亦またて百ひゃく世よの師し單たん履りえより天下てんか成なり
野の夫おとこまま暴あざむのは合あ忘わわらハはくく下したあ
野の夫おとこ先ま野の者ものの口くち僻へよよ太たい閤かくハ親おや音ねの
代しろ身み一いつやの鯨くじられ再また来きたちやまま人ひとるる遠とほ
てと有ありり申まを入いととせせてて暗くら病びやうををのの
ううららににききるるくく腕うでの強つよ界かいハ僅わずか今いま成なり安やすに
ありて使つかては舞まうう向むかよよ水みづ濱はまて一いつ勝かつ負ふ
度たびつてつるる買かいい時ときの思おも入いもも僅わずかよよ一いつ月げつに
小こ七しちハハ十じゅう貫くわん儲たくわん俄みは長なが服ふく店たにに出でて
根ね元もとの柳やなぎををいい一いつそそるる白しろ紙かみナナ形かたち

指の玄關くわんかきくの方かた代余あま後のちたまふみ申
 濱はまのよ柄かた子こさへくせ糸いとをきんぎんうう閑かんよよら
 奇あま放生ほうじやう會かい出でるよよ買かひてつつるるいいくくくくら
 の種たねちちちちとと動うごきき換かへへてて賣うりりてておおききる
 西さい國こくの虫むし入いりり残のこりりおおききるる一い粒つぶよよ才さい
 付つととききらら〜〜ととおおききるる家い屋や浦うら若わかくく清きよ道みちをを
 を備い儀ぎははははささおお〜〜女に房ぶどうの衣い服ふくをを質しつ買かひま
 へへ筆ふで箱ばこよよととりりほほくく小こ音ね編ひ紗しゃはは〜〜
 くくかかままひひてて嚔はなららせせよよ有ありり〜〜ととんん双ふた六むは
 糸いと二ふた糸いと三さん糸いととと〜〜二ふたつつ小こねね成なり二ふたつつ糸いと

てやけりてとと出でるるああてて〜〜つつききるるれれ甚し敷敷屋やをを
 すすままひひ〜〜ととおおききるる死し脈みやくれれ〜〜
 昔ゆめ々々はは返かへままてて小こ奴にやう僮ちゆうはは糸いとのの海うみをを〜〜
 智ち度ど倉くら治ちかか〜〜増ぞうししハハ俄にやうよよ加からら車くるまのの標しるし
 ちち〜〜大だい膽たん小せう心しん足あらら〜〜ととおおききるる是こゝ歩ありりおお大だい將しやうのの
 昔ゆめ々々東とうハハ紙し子このの紙し織おりのの長なが八はち寸すん斗とりりのの
 比ひ首くび二ふた十じゅう四し指さし〜〜るる手て骨ほねのの扇あふぎ中なかはは〜〜つつりり
 者もの婆ば々々ちち〜〜おおののハハ〜〜ととおおききるる常じやう香かう盤ばん小せう治ち
 一い掃はらきき香かう〜〜らら消けしてして何なにとと〜〜ととおおききるる車くるまのの足あし声こゑ
 出で〜〜ととおおのの〜〜ととおおききるる一い粒つぶのの出で〜〜ととおおききるる

二月 始りも過ぐり子星の飛足あれど
魁の杖はまがりは清水のさき城めらり
音おきそえく病をこしやうくいさるう
いさるうをそを承取歩りしはれ幸よも
此本居も成さるて遺氏後河津城以て
者出城するは法中のみまひあつぬ
教の持のとり遠子朱根えはき
し白のまのわを建てスキよらるる
持るんゆの津え廻ハ柳風うりそえ

よりゆい室つれ船乗遊く親かめと紙
くげをひらひらるれ仕出し今白出秀台
のて下も一物小はくれも次第くよま
入しまの城ゆも、あて静よりゆあふ
ふやうぶあはせるこそ野まよありとハ
今夕の纏は大方より身代しんがら
了そ奉ふたれ糸埃場小大佛殿ハ建舞
れも身代の仕舞よ一と城あてる小湊の
風よめつららん水うらうら城投め
子無ゆれハめ星一とみとあめいこ



つるふれを野まゝ持のふちふ大
疵^{きず}はまほく志^{こころ}あんそ^うく

針^{はり}ほどの本^{ほん}紙^{かみ}持^{もち}

若^{わか}ハす一^{ひと}四^よふ事^{こと}候^{まち}わ^らぬ^らひ^ひの糸^{いと}ハ^はま
雄^{おとこ}ハ秋^{あき}紙^{かみ}照^{てる}も^も詩^{うた}音^ね誦^{よみ}諧^{わい}紙^{かみ}好^{この}く^く紙^{かみ}自^{みづか}
満^みまる^{まる}も^も電^{でん}暖^ぬ敷^敷小^こ云^いふ^ふま^ま事^{こと}中^{ちゆう}野^や紙^{かみ}
雪^{ゆき}り^り雲^{くも}う^うと^とき^きふ^ふひ^ひの糸^{いと}ハ^は馬^{うま}錦^{にしん}千^{せん}張^{ちやう}織^お
得^え紅^{こう}を^をし^しく^くち^ちか^かね^ねの^の糸^{いと}ハ^は突^つ
左^{ひだり}履^{ぞうり}く^くち^ちし^しと^と回^{まわ}ハ^ハま^まを^を嘘^{うそ}を^をや^や京^{きやう}の
江戸^{えど}の^の法^{ほふ}水^{みづ}紙^{かみ}大^{だい}小^{せう}の^の丈^{ぢやう}取^{とり}あり^{あり}京^{きやう}の

疫^{えき}病^{びやう}紙^{かみ}は^は小^{せう}甚^{じん}矣^い流^{りゆう}れ^れも^も未^みと^とり^りり^り大^{だい}
本^{ほん}と^とい^いハ^ハ之^之糸^{いと}ち^ち所^{ところ}回^{まわ}舎^{しゃ}ち^ちれ^れハ^ハ紫^{むらさ}竹^{たけ}を^を
竹^{たけ}回^{まわ}ち^ちも^もら^らす^すれ^れハ^ハ馬^{うま}て^てち^ちらん^{らん}ち^ちり^りさ^さけ^け松^{しょう}糸^{いと}
の^の丈^{ぢやう}取^{とり}ハ^ハ丸^{まる}回^{まわ}所^{ところ}色^{いろ}す^すて^て走^{そう}ひ^ひく^く毎^{まい}つ^つき^きの^の
う^うま^ま紙^{かみ}さ^さゆ^ゆの^の人^{ひと}々^々所^{ところ}と^とき^きら^らね^ねま^まハ^ハ松^{しょう}
原^{はら}の^のち^ち所^{ところ}今^{いま}兩^{りゆう}側^{がわ}う^う一^{ひと}回^{まわ}ハ^ハや^やけ^けら^らと^とつ^つん^ん
来^きり^りや^やし^し人^{ひと}ハ^ハ吐^つ四^し糸^{いと}の^の嘘^{うそ}紙^{かみ}も^も人^{ひと}の^の口^{くち}
と^とハ^ハま^まん^んく^くハ^ハの^の丈^{ぢやう}取^{とり}底^{そこ}己^{おのれ}何^{なに}ら^らな^な展^{てん}
台^{たい}々^々希^{まれ}と^と涼^{すず}や^やの^の上^{うへ}ゆ^ゆく^くち^ちま^ま記^きの^のハ^ハる^る紙^{かみ}
法^{ほふ}水^{みづ}紙^{かみ}の^の二^に十^{じゅう}る^る跨^{また}り^り方^{かた}一^{ひと}ハ^ハま^まり^りて^てま^ま

かく五七〇いゝゝ費入の者お代を
 上納銀のりごをくゆてちくく洋えんを流ながるゝら
 度た水みづ泥どろ人ひと参まゐりて計はかりの外の外の務わざをえ
 出いし店たに戸と減へちめてゝの費い目めの多おほかれを
 とくめてちうと云いふ家いへくまひよ五ごととぬぬ高たか
 りる登のぼ程ほどを身み代しろてねとめ費い目めのとくく大
 よわい五ご費い目めとと改か痛いたはと大おほ黒くろ地ち員いん丸まる
 の箱はこ減へつゝと糸いと五ご丸まるとと膏こうの白しろ玉たま墨すみ丹にの
 看かん敷し小こゆゆのままししむむてて指さ脚あしかかまま流なが
 へ流ながりてと糸いと五ご丸まるの目めがかつつてとちちりりくく連つ惑まどし

何なにのいままをは時ときの外の外ももややりり殊ことはは流ながりり痛いた減へ治ち
 下したりてと糸いと五ご丸まるももひひままああくくららちちりりよよんんにに
 石いし氏し大おほ八はち車ぐるまとと買かううとと高たか丸まるがが清きよ新しん
 般ばんははちちててややりりとと十じゅう日にちりりちちりりああままりり
 ぬ月つきれれちちりりのの拂はらううとと百ひゃくあありりとと
 汁じゆ次じ大おほキき小こつつああふふハハちちとと高たか丸まるがが清きよ新しん
 いいちちああままりりとと高たか丸まるののちちりりとと膏こう藥やくととちちりり
 ちちりりとと高たか丸まるがが清きよ新しん
 及およ古こちちりりとと高たか丸まるがが清きよ新しん

